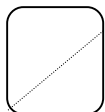


ごんぎつね ⑤

名前



「ごんぎつね」を読みながら、ことばのきまりを勉強しましょう。

①から⑤までのひらがなをへくのなかに入れながら読んでみましょう。

【例】

これは、私が小さいときに、村の茂平もへいというおじいさんへからくきいたお話です。

むかしへはへ、私たちの村へのちかくの、中山というところへに小さなお城へがあって、中山さまというおとのさまが、おられたそうです。

①が ②に ③の ④から ⑤は

【一】

ごんは、おねんぶつがすむまで、井戸のそばにしゃがんでいました。兵十と加助は、また一しよにかえっていきます。ごんへく、二人の話をきこうと思つて、ついていきました。兵十の影法師かげぼしをふみふみきました。

お城の前まで来たとき、加助へく言い出しました。

「さっきの話は、きつと、そりゃあ、神さまへくしわざだぞ」

「えっ？」と、兵十はびっくりして、加助の顔を見ました。

「おれは、あれからずっと考えていたが、どうも、そりゃ、人間じゃない、神

さまだ、神さまが、お前がたった一人になったのをあわれに思わっしやって、
いろんなものをめぐんで下さるんだよ」

「そうかなあ」

「そうだとも。だから、まいにち神さまへ〜お礼を言うがいいよ」

「うん」

ごんは、へえ、こいつはつまらないなと思いました。おれが、栗や松たけを
持っていつてやるのに、そのおれにはお礼へ〜いわないで、神さまにお礼を
いうんじゃア、おれは、引き合わないなあ。

- ①が ②に ③の ④を ⑤は

【二】

そのあくる日もごんは、栗をもって、兵十の家へ出かけました。兵十は物置
で縄をなっていました。それでごんは家の裏口から、こっそり中へはいりまし
た。

そのとき兵十は、ふと顔をあげました。と狐が家の中へ〜はいったではあ
りませんか。こないだうなぎをぬすみやがったあのごん狐めへ〜、またいたず
らをしに来たな。

「ようし。」

兵十へ〜立ちあがって、納屋にかけてある火縄銃をとって、火薬をつめま
した。

そして足音をしのばせてちかよって、今戸口を出ようとするごんを、ドンと、
うちました。ごんは、ばたりとたおれました。兵十はかけよって来ました。家

の中を見ると、土間へへ栗が、かためておいてあるのが目につきました。

「おや」と兵十は、びっくりしてごんに目を落しました。

「ごん、お前だったのか。いつも栗をくれたのは」

ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。

兵十は火縄銃へへばたりと、とり落しました。青い煙が、まだ筒口から細く出ていました。

- ①が ②に ③を ④へ ⑤は

答え

【一】

ごんは、おねんぶつがすむまで、井戸のそばにしゃがんでいました。兵十と加助は、また一しよにかえっていきます。ごんは、二人の話をきこうと思って、ついていきました。兵十の影法師かげぼしをふみふみきました。

お城の前まで来たとき、加助が言い出しました。

「さっきの話は、きっと、そりゃあ、神さまのしわざだぞ」

「えっ？」と、兵十はびっくりして、加助の顔を見ました。

「おれは、あれからずっと考えていたが、どうも、そりゃ、人間じゃない、神さまだ、神さまが、お前がたった一人になったのをあわれに思わっしやって、いろんなものをめぐんで下さるんだよ」

「そうかなあ」

「そうだとも。だから、まいにち神さまにお礼を言うがいいよ」

「うん」

ごんは、へえ、こいつはつまらないなと思いました。おれが、栗や松たけを持って行ってやるのに、そのおれにはお礼をいわないで、神さまにお礼をいうんじゃア、おれは、引き合わないなあ。

- ①が ②に ③の ④を ⑤は

【二】

そのあくる日もごんは、栗をもって、兵十の家へ出かけました。兵十は物置

で縄をなっていました。それでごんは家の裏口から、こっそり中へはいりました。

そのとき兵十は、ふと顔をあげました。と狐が家の中へへはいったではありませんか。こないだうなぎをぬすみやがったあのごん狐めへが、またいたずらをしに来たな。

「ようし。」

兵十へは立ちあがって、納屋にかけてある火縄銃をとって、火薬をつめました。

そして足音をしのばせてちかよって、今戸口を出ようとするごんを、ドンと、うちました。ごんは、ばたりとたおれました。兵十はかけよって来ました。家の中を見ると、土間に栗が、かためておいてあるのが目につきました。

「おや」と兵十は、びっくりしてごんに目を落しました。

「ごん、お前だったのか。いつも栗をくれたのは」

ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。

兵十は火縄銃へをばたりと、とり落しました。青い煙が、まだ筒口から細く出ていました。

- ①が ②に ③を ④へ ⑤は